

「現場研究報告」投稿論文の募集

『質的心理学研究』（以下本誌）は発刊以来、質的研究における理論的・方法的な最先端の領域を切り開いていくことをめざして、心理学およびその関係学問領域における質的研究に発表の場を提供し、質的研究の発展を図ってきた。

この度本誌は発刊より20年を迎えることとなり、それを記念して、臨時特集を企画することを決定した。臨時特集のねらいは、豊かな現場（フィールド）研究を発掘し、これからの質的研究のさらなる発展に寄与することにある。

本誌はこれまでも、原著・資料等の種別を限定せず、質的方法に基づく経験的研究・理論的研究・方法論的研究などの多様な論文を掲載してきた。他方で一般論文・特集論文のいずれにおいても、実際に掲載されるためには相応の理論的・方法論的検討が求められ、またそれゆえに審査にかかる期間も長期に及ぶものが多かった。

今回の臨時特集では、これまでの投稿枠組みとは大きく異なる基準ならびに手続きを用いる。具体的には、理論的・方法論的検討の分厚さよりも現場（フィールド）での発見や実践のユニークさを重視する、論文受理から掲載までの期間を短くし速報性を重視する、などである（詳細は別紙の投稿規定を参照されたい）。

特集企画では、教育・医療（看護，リハビリテーションを含む）・社会福祉・企業・政策などの様々や現場（フィールド）でのユニークな実践やそこでの発見についての現場研究報告を募集する。また狭い意味での臨床実践の現場だけではなく、メディア、作品、パフォーマンスなどの、より大きな現場（フィールド）からの報告も歓迎する。現場での発見や実践の面白さやユニークさが伝わる、生き生きとした報告を期待する。

加えて本特集企画では英語論文も歓迎する。日本の質的研究を世界に向けて発進する意欲的な投稿を期待する。

今回の特集企画は本誌にとってもチャレンジングなものであるが、この試みを足がかりとして、『質的心理学研究』の新たな可能性を模索したいと考えている。

大学や研究所に勤務されている研究者の方々はもちろんのこと、教育、医療、社会福祉等の実践者や企業、行政関係等で研究に従事されている方、初めての投稿にハードルを感じていた大学院生の方、豊かなデータを持ちながら理論的・方法論的検討の段階で宙に浮いてしまった論文をお持ちの方など、この機会にぜひ多くの方に投稿をご検討いただきたい。

『質的心理学研究』編集委員会
委員長 川島大輔